

<阿波木偶(でこ)「三番叟まわし」とは> (徳島県指定無形民俗文化財)

阿波木偶「三番叟まわし」は、四国を代表する門付(かどづけ)芸です。千歳(せんざい)・翁(おきな)・三番叟(さんばそう)の木偶で「式三番叟」を舞い、家内安全・無病息災や五穀豊穰を祈り、えびす木偶が商売繁昌や豊漁を祈ります。

「三番叟まわし」は、徳島県独特の無形民俗文化財で、現在は阿波木偶箱まわし保存会が伝承し、正月の門付(かどづけ)を受け継いでいます。2018年は、元旦から旧正月のひと月半をかけて、約1000軒の民家に福を運びました。この取り組みで2017年にサントリー地域文化賞を受賞しました。

2011年元旦に放映された「ゆく年くる年」(NHK総合)や、2015年「新日本風土記・吉野川」(NHKBS)で、門付の様子が全国に紹介されました。

<「箱廻し」とは>

箱廻しは、人形浄瑠璃芝居を、路傍で演じた道の芸です。明治初年の箱廻し芸人は200人を数えたといわれています。ふたつの木箱に数体の木偶を入れ、天秤棒で担ぎ移動しました。箱廻しは、通常2、3人で稼働し、ひとりで木偶を操りながら浄瑠璃を語ります。彼らは、徳島から全国に阿波淡路系の人形文化を運びました。そのことにより、各地に根付いた人形芝居に影響を与えたといわれています。世界記憶遺産となった山本作兵衛さんの作品の中に箱廻しが描かれています。また、竹久夢二も箱廻しの絵を残しています。

<実演する箱廻し外題あらすじ>

「傾城(けいせい) 阿波の鳴門 八段目 巡礼歌(じゅんれいうた)の段」

徳島藩のお家騒動に絡んで、阿波の十郎兵衛・お弓の夫婦は主君の盗まれた刀を詮議するため大阪玉造に盗賊銀十郎と名を変え住んでいる。そこへ巡礼姿の娘お鶴がはるばる徳島から父母を尋ねて来る。お弓は我が子と分かるが、そこで親子の名乗りをしたのでは、我が子にどんな災いが来るとも限らない。お弓は涙を飲んで別れる。名残惜しげに見送るのだが、ここで別れては今度いつ会えるか分からぬと追いかける。

「絵本太功記(えほんたいこうき) 十段目 尼ヶ崎の段」

尼ヶ崎に閑居する老母皐月(さつき)のもとへ光秀の妻操(みさお)が、嫁初菊(はつぎく)を伴って見舞いに来る。光秀の一子十次郎も出陣の許しを得るために訪れ、初菊と祝言して出陣する。いっぽう武智方の勇将四天王但馬守に追われた久吉(ひさよし、羽柴秀吉)は、僧形となって宿を求めて来る。光秀は跡を追ってやって来て久吉を討とうとしたところ、誤って母を刺す。久吉と光秀は勝負を天王山で決しようと別れる。

「日高川入相花王(ひだかがわいりあいざくら) 渡し場の段」

清姫は、かつて見染めた男である安珍に恋心をつのらせる。安珍には、小田巻姫という恋人がいて、二人は道成寺へおもむく。嫉妬で逆上した清姫が二人を追いかけていく。日高川にやってきた清姫は、船頭が渡してくれないとみるや、蛇となって泳いで川を渡る。道成寺へ着いた清姫は身代わりの安珍と小田巻姫を殺してしまう。

